

令和6年度創造都市政策セミナー in 越前市 開催報告

【全体概要】

- 令和6年度の政策セミナーは、伝統工芸が多く継承され、UCCN クラフト&フォークアート分野への加盟をめざす福井県越前市において、2日間の日程で開催した。「ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）がSDGsに果たす貢献」をテーマとし、UCCNの加盟都市や今後加盟をめざす都市にご登壇いただき議論を行うとともに、基調講演では、韓国・晋州市から Byung-Hoon Jeong 氏をお招きし、UCCN クラフト&フォークアート分野で活躍する晋州市の取組を学ぶ機会とした。
- 政策セミナー後には、交流会やエクスカージョンも合わせて実施した。

【政策セミナー】

開催日時	令和6（2024）年11月1日（金）14:30~17:00
開催方法	越前市（生涯学習センターeホール）及びオンライン（ハイブリッド開催）
主催	高松市
共催	創造都市ネットワーク日本（CCNJ）、越前市、文化庁
参加人数	80名（現地61名、オンライン19名）
参加自治体・団体数	自治体：13、団体：3
プログラム	<p>□開会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none">・山田賢一氏（越前市長）・児玉大輔氏（文化庁 参事官（生活文化創造担当）） <p>□基調講演「晋州市のクリエイティブ活動」</p> <ul style="list-style-type: none">・Byung-Hoon Jeong 氏（慶尚大学校名誉教授） <p>□パネルディスカッション「国内のUCCN加盟都市の動向と世界への発信」</p> <p>≪モデレーター≫</p> <ul style="list-style-type: none">・朝倉由希氏（公立小松大学 国際文化交流学部 准教授） <p>≪パネリスト≫</p> <ul style="list-style-type: none">・奥谷博之氏（越前市 総合政策部 ブランド戦略課 文化県都推進室長）・辻下美智子氏（高松市 創造都市推進局次長 兼 文化芸術振興課長）・稲田憲樹氏（神戸市 企画調整局 大学・教育連携推進課長）・江坂恵里子氏（名古屋市 観光文化交流局 文化芸術推進課 国際交流専門員（文化振興）） <p>□総括</p> <ul style="list-style-type: none">・Byung-Hoon Jeong 氏（慶尚大学校名誉教授）・佐々木雅幸氏（大阪市立大学名誉教授／CCNJ 顧問）

【セミナープログラム概要】

1. 基調講演「晋州市のクリエイティブ活動」

／Byung-Hoon Jeong 氏（慶尚大学校名誉教授）／金希南氏（逐次通訳）

- ・最近、国際社会では、文化を「グローバル公共財」と定義し、文化が持続可能な開発において重要な役割を果たし、その必要性が強調されている。2022年9月にメキシコで宣言された MONDIACULT 2022 宣言では、文化の多様性を保護することを確認し、創造性の源として人類にとって不可欠なものとしている。
- ・ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）のミッションは、MONDIACULT 2022 宣言の前後で大きく変わった。これから加盟する都市や報告書を提出する加盟都市は、6つの優先テーマを盛り込んだ事業や政策を行い、報告しなければならない。
- ・韓国の晋州市が創造都市政策を始めたのは、産業都市として発展することで、歴史、文化都市としてのアイデンティティが損なわれてしまう危機意識がきっかけだった。豊富な自然資源があったため職人が集まり、木工芸やシルク産業が栄え、民族舞踊も有名であり、ユネスコの文化遺産になっている。
- ・2019年にユネスコ創造都市に指定された時点では、3つの大きな課題があったが、4つのアプローチ（学術的、教育的、芸術的、産業的）を行い、文化エコシステムを構築してきた。そして、2022年にはクラフト&フォークアート分野サブネットワーク年次会議を開催した。
- ・また晋州市では、市民の気候変動に対する危機意識を高めるために、毎年学術フォーラムを開催しており、旧晋州駅など古い建物を再生し、晋州伝統工芸ビエンナーレの展示会場にするなど、CO2を減らす活動をしている。
- ・危険にさらされたアーティストと文化の保護については、アーティスト・イン・レジデンスによる海外アーティストとのコラボレーションや、工芸アイデアコンテストで支援している。
- ・文化的多様性の促進と文化的権利の確保は、SDGs と MONDIACULT 2022 宣言の一番重要な使命である。

2. パネルディスカッション「国内の UCCN 加盟都市の動向と世界への発信」

(1) 越前市の取組紹介

／奥谷博之氏（越前市 総合政策部 ブランド戦略課 文化県都推進室長）

- ・越前市は6世紀から発展し、継体天皇や紫式部が過ごした歴史ある都市である。
- ・2025年にユネスコ創造都市ネットワークへクラフト&フォークアート分野での加盟を目指している。主要な伝統産業として、越前和紙、越前打刃物、越前たんすなどがあり、最近の取り組みとしては、国際木版画会議や千年未来工芸祭などを開催している。
- ・工芸以外には、35回続いている武生国際音楽祭や丹南アートフェスティバル、今立現代美術紙展、あなたを想う恋のうた募集事業などを行っており、市民活動の源氏物語アカデミーは35年間続いている。
- ・創造都市として、創造性と文化産業の促進、世界との交流が新たな発想を生む、持続可能な都市としての発展を目指したい。

(2) 高松市の取組紹介

／辻下美智子氏（高松市 創造都市推進局次長 兼 文化芸術振興課長）

- ・高松市は音楽分野でユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請を予定している。
- ・人口約 41 万人の瀬戸内海に面した中核市で、平成 24 年に創造都市推進局を設置し、独創、未来、世界の三つの基本方針で施策を推進している。
- ・「独創」については、市民が誇りにできる独創的な高松ブランドを創出し、持続的に発展させることを目指しており、さぬき高松まつり、高松アーティスト・イン・レジデンス事業などを実施している。「未来」については、高松らしい産業や文化芸術を次世代に継承させることを目指しており、アーティストを「芸術士」として保育所などに派遣し、子どもの創造力を育む取組を行っている。「世界」については、瀬戸内国際芸術祭や G7 香川・高松都市大臣会合など国際的なイベントを開催している。
- ・音楽については、世界レベルの高松国際ピアノコンクールや、まちなかパフォーマンス事業を実施し、音楽を中心とした創造都市としての発展を目指している。

(3) 神戸市の取組紹介

／稲田憲樹氏（神戸市 企画調整局 大学・教育連携推進課長）

- ・神戸市は、2006 年に民間団体からの提言を受け、2008 年にアジア初のユネスコ創造都市ネットワークデザイン分野に認定された。1868 年に開港し、外国文化を受け入れ、ものづくりが盛んな都市である。1995 年の阪神・淡路大震災から復興し、人々の創造性と絆が都市戦略としてデザイン都市を支えている。
- ・創造都市の拠点として、デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) が設立され、企画事業やレンタルスペース事業、クリエイティブラボなどを運営し、こどもの創造力を育む取組や、社会貢献活動の支援を行っている。食都神戸や神戸クリエイターズノートなど、地域の農業やクリエイターの支援も行っている。
- ・市民参加型の公園作りやパークレットなど、市民と共に創造的な都市作りを推進している。

(4) 名古屋市の取組紹介

／江坂恵里子氏（名古屋市 観光文化交流局 文化芸術推進課 国際交流専門員）

- ・名古屋市は、2008 年にユネスコ創造都市ネットワークに加盟し、デザイン都市として認定された。400 年前の名古屋城築城を契機に産業が発展し、日本の陶磁器や繊維などの輸出産業を支えてきた。現在も強い経済力に裏付けられた安定的な雇用がある。
- ・1989 年の世界デザイン博覧会開催を契機に、デザイン都市宣言を行い、創造的な都市発展と人間性豊かなまちづくりを目指している。国際デザインセンターの設立や、世界グラフィックデザイン会議など多くのイベントも開催している。
- ・ユネスコ創造都市ネットワークの加盟にあたり、三つのビジョン：人材育成、環境都市への誘い、多様な文化とのネットワークを掲げた。最近の活動としては、デザイン都市サブネットワーク会議や Correspondence カンファレンスを開催し、国際的なデザインイベントやフォーラムへの参加を通じて、都市間交流を推進している。
- ・知財権セミナーや SDGs をテーマにしたイベントも開催し、SDGs 未来都市でもあり、持

持続可能な未来を目指し、デザインを活用した多彩な取組を行っている。

(5) 論点1：Byung-Hoon Jeong 先生の基調講演を受けて、
UCCN がめざす姿や、SDGs への貢献等について

朝倉氏（モデレーター）

- ・ Jeong 先生の講演のポイントは、文化をグローバルな公共財として捉える提言だった。各都市の創造都市政策が、SDGs と持続可能性にどのように結びついているのか、お聞きしたい。

奥谷氏（越前市）

- ・ 生活に密着した工芸品産業は大量生産ではなく、リサイクル体制が整っている。持続可能なものづくりを創造都市の一環として推進したい。
- ・ 小学3年生のふるさと発信学習授業は、自ら興味を持ったものを自ら調べ、取材し、発表するもので、定住化、シビックプライドの醸成などにもつながる取組を行っている。

辻下氏（高松市）

- ・ 音楽は言葉の壁を越え、社会的包摂のまちづくりに寄与する。音楽家を病院や福祉施設に派遣する事業や、まちなかでの無料コンサートなどを実施することで、誰もが参加できる多様性のあるまちづくりを進めている。
- ・ 芸術士派遣事業は、幼少期の子どもに対してアプローチを行うことで、成長過程に良い影響を与えられると考えている。

稲田氏（神戸市）

- ・ 文化の多様性が創造性の基盤であり、文化による持続可能なエコシステムの実現や、市民の文化的権利の確保が重要だ。子どもの創造力を育む活動や、シビックプライドの醸成、公園の整備などを推進したい。
- ・ 子どもに学んでもらうことで親が自然に学び、意識せずに社会参加を促すことを意識し、市民の関わり代をつくっている。
- ・ タワーマンションの規制や神戸リンの活用、水素分野の実証実験など、特徴のある取組も行っている。

江坂氏（名古屋市）

- ・ SDGs 未来都市として、環境問題の克服やスタートアップ支援などを推進している。
- ・ 干潟の埋め立てに対する反対運動を機に、市民、事業者、行政が協働し、環境を守るアクションを展開している。
- ・ 「なごや環境大学」は市民、市民団体、企業、教育機関、行政が、立場や分野を超えて協働で運営しており、行動する市民、協働する市民として共に育つ教育を目的とし、時には子どもたちが講師になることもある。

朝倉氏（モデレーター）

- ・ 組織を超えた協力体制についてお聞きしたい。

稲田氏（神戸市）

- ・ 神戸市は市民活動の支援を強化し、KIITO:300 に相談窓口を設置している。
- ・ 子どもたちにごみの6分別を学ばせることで、親や高齢者にも子どもが指導する仕組みができた。

- ・プラス・クリエイティブでは、退職者の地域活動参加を促進するためにパンづくりを教え、地域で食事会などを開催する「パンじい」プロジェクトを展開している。

江坂氏（名古屋市）

- ・名古屋市は市民協働を推進し、大学や民間企業との連携を強化しているが、組織づくりや行政の人事異動は課題だ。
- ・ユネスコ協会との連携強化も必要であり、MONDIACULT 2022 宣言以降、市民の理解を得ながら、自らのビジョンに合わせて具体的な取組を進める重要性を認識している。

辻下氏（高松市）

- ・高松市は、平成 24 年に創造都市推進局を設置したが、どの分野で加盟申請を行うべきか決められなかった。今年 4 月の市民団体からの提言により、音楽分野での加盟申請を推進することに決定した。
- ・市民主導でオペラを創作し公演するなど、市民の活動が活発で、市もバックアップしている。今後、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を通じて、市民との協力をさらに深めたい。

奥谷氏（越前市）

- ・創造都市の認知度と市民の理解が難しい。UCCN 加盟申請の準備の中で、既に行っている事業が創造都市としての事業だったと気づくこともあった。
- ・UCCN に加盟することで、さらに事業をステップアップさせ、SDGs や持続可能性を意識しながら進め、韓国の晋州市をモデルケースとして進めたい。

(6) 論点 2：UCCN 加盟の成果・期待や課題、加盟に向けた意気込みなど

朝倉氏（モデレーター）

- ・UCCN 参加の成果と国際ネットワークのメリットを神戸市・名古屋市の経験から、また、越前市・高松市の展望と各都市が目指す姿についてお聞きしたい。

江坂氏（名古屋市）

- ・国際的なネットワークの最大のメリットは人材育成で、市民が多様な文化を実体験し、オープンな交流が進み、会議の間に新たなプロジェクトが生まれ、様々な規模の事業展開が可能だ。都市の規模に関係なく情報共有と活動ができるのも大きな利点である。

稲田氏（神戸市）

- ・神戸市は、多様性を見直すきっかけとして国際的な交流が重要だと考えている。
- ・KIITO の活動で担い手不足が課題となっており、他都市との連携が参考になっている。多様な文化との交流が新たな発見を促す。

辻下氏（高松市）

- ・オープンなネットワークを人材育成につなげたい。他都市の音楽家を招き、演奏会を開催するなど、より質の高い教育、音楽鑑賞の場を増やしたい。
- ・音楽だけでなく、漆器や盆栽などの他分野との連携についても、他都市の事例を学びたい。

奥谷氏（越前市）

- ・創造都市事業によって伝統産業が注目され、海外交流で発想と創造性が加わり、高付加価値商品が生まれることを目指している。

- ・越前市として世界に貢献する観点が重要と再認識し、大きな目標として進めたい。

朝倉氏（モデレーター）

- ・4都市の創造都市の取組を伺った。多くの資源と課題を抱えながら、SDGs や文化の公共財としての理念に合わせて創造都市政策を進める重要性を確認した。

3. 総括

(1) Byung-Hoon Jeong 氏（慶尚大学校名誉教授）／金希南氏（逐次通訳）

- ・本日の創造都市政策セミナーで多くを学んだ。創造都市の目的は、文化を通して社会問題を解決することである。
- ・UCCN 加盟申請書には、現在の課題と解決策を明確に記入し、伝統や文化との関係性を示すことが重要である。高松市と越前市には大きな可能性がある一方で、審査員の気持ちを揺さぶる感動的なストーリーにも焦点をあてて準備してほしい。

(2) 佐々木雅幸氏（大阪市立大学名誉教授／CCNJ 顧問）

- ・晋州市がUCCNへ加盟申請する際に支援した経験がある。その後、晋州市は大変な努力をされたことがわかった。Jeong 先生が本日の会議に駆けつけいただいたことに感謝したい。
- ・UCCN への加盟申請には、都市の課題を文化の創造性で解決するストーリーが重要です。神戸市の震災からの心の復興について、文化芸術で元気にするというプログラムは、当時としては良かった。
- ・文化多様性と文化的権利を守ることがユネスコの目的だが、今は世界が戦争と平和の大問題に直面している。戦争は人間の心の中から生まれるものであり、心に平和を築き上げていかなければならない。

【エクスカージョン】

ものづくりの体験型マーケット「RENEW2024」の越前市会場の視察等

開催日時：令和6年11月2日（土）10:00～12:00

会場：越前市及び鯖江市の実施会場

